

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
在外研究
2012年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	社会学部・教授		黄 盛彬 印	
研究課題	トランスナショナル化するメディア・文化と政治世論への影響			
研修期間	2012年8月17日 ～ 2013年3月31日（227日間）			
経 費	年度経費	SFR助成額	所属学部からの補助額	合 計
	2011年度	円	円	円
	2012年度	1,641,000円	750,000円	2,391,000円
主な滞在国 及び 研究機関名	国 名	研究機関名		
	カナダ	Simon Fraser University		

研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)

本研究では、カナダ・バンクーバー地域におけるアジア系住民を対象に、トランスナショナル化するメディアや文化、そしてニュース情報などをどのように利用・受容しているのかを把握し、ナショナル・アイデンティティ、他者認識、政治世論への影響を調査・分析することを目的とした。バンクーバー地域には、古くからの中華系住民に加わって、日本や韓国からの移民、留学生などの多様な背景を持つアジア系住民が多く居住している。近年のグローバル化の深化やメディア・テクノロジーの発展、そしてカナダ社会の多文化・他文化への「寛容」も加わり、世界のどの社会よりも、トランスナショナル化の度合いは進展している。

これまでは、バンクーバー地域における多文化の状況やメディアの状況を文献調査、聞き取り調査、フィールドワークの手法を用いて、研究してきた。また、調査研究と並行して、北米地域を中心に、メディアや文化のグローバル化の状況を把握する必要がある、関連する最先端の議論や、制度や産業の動態などを幅広く調べる必要がある、研究期間の前半はこれらの理論的なレビュー作業に集中することになった。これらの成果については、バンクーバー地域における多文化化に伴うメディア動態の変遷としてまとめる予定であり、また文献調査の成果としては、レビュー論文として発表する予定である。

移住者コミュニティにおける仮想的な空間の環境調査については、メトロバンクーバー地域の主要都市（Vancouver, North Vancouver, West Vancouver, Burnaby, Coquitlam, Richmond）を対象に文献調査およびフィールドワーク調査を展開した。

研究成果の概要 (つづき)

それぞれの地域は、比較的多数を占めるエスニック集団があり、それぞれの多文化の状況と対応したはっきりとしたメディア環境における違いが観察された。また、情報内容に関する調査は、それぞれのエスニック・メディアや、アクセス可能な本国からのメディアや文化のルートおよびその内容に関して研究を展開した。また、カナダのナショナル・メディアやアメリカのメディアなどといったメジャーなメディアの情報内容に関しても、最新の動向を把握する必要があったため、必要に応じて動態を調べることとなった。具体的には、テレビや新聞といったマスメディアまたは伝統的なメディアを対象としたが、ビデオレンタルやインターネットを経由したメディア利用が広範囲に浸透していたため、情報行動の調査との補完が欠かせなかった。

情報行動の調査に関しては、前述した各都市に散在する多様なエスニック集団を対象に聞き取り調査を実施した。この聞き取り調査は、当初想定していた日本系、中国系、韓国系に加えて、イラン、プリフィン系の移民者を対象に拡大して実施した。前述した情報内容聞き取り調査については、この地域における多様なエスニック集団を対象に、インタビューを実施してきた。主な調査対象は、移民者と大学生などの留学生に別れるが、それぞれのエスニック集団に特徴的な対象者の特性があるため、それぞれのエスニック集団別に研究成果をまとめる必要があった。

なお、2012年度の外研究機関は、学部より与えられた在外研究機関の前半であり、前年度までの科学研究費助成研究である「日本と韓国における周辺国認識の比較研究：複数の他者認識の相関・影響関係の解明」の成果をまとめると同時に、その成果を踏まえて、次のステップとして位置づけられる研究を展開していくことを目標としていた。これに関連しては、これまでの研究成果に加えて、バンクーバー地域の韓国、日本からの移民者や短期滞在者への聞き取り調査の成果を含めることができおり、現在、出版に向けて準備を進めている。また、バンクーバー地域の多文化化の動向に焦点を定めた調査分析の成果としては、これとは別に発表していく予定である。

キーワード (研究内容を適確に表しているものを5項目で記入)

[ナショナル・アイデンティティ] [他者認識] [越境文化] [政治世論] [遠隔地ナショナリズム]

研究発表

現時点で発表済みの成果はなく、以下の予定で発表を予定している。①雑誌論文として、ソウル大学(韓国)日本学研究所発行『日本批評』第10号(2014年2月発行予定)に論文を投稿予定。※特集への投稿依頼
③学会発表として以下のような予定がある。

1. 尖閣諸島問題に関する報道と受容分析(タイトル未定)、Communication and Global Power Shifts, An International Conference in Celebration of the 40th Anniversary of the School of Communication Simon Fraser University Vancouver, Canada, June 7-9, 2013.

2. Korean Wave in the “Cool Japan”, 2013 IAMCR(International Association for Media and Communication Research) Conference, Dublin, June 25-29, 2013.

3. Media Framing of Anti-Nuclear Protests: an International Comparative Study on the Fukushima Nuclear Crisis, 2013 IAMCR(International Association for Media and Communication Research) Conference, Dublin, June 25-29, 2013.

そのほか、日本と韓国の周辺国認識の比較研究としての成果に、バンクーバー地域での調査研究を加えた論文集を単著として出版できるように準備中である。また、社会学部の研究紀要には、上記の研究内容を調査報告として投稿する予定である。

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。